

平成 21 年度募集・平成 22 年度採択

「環境研究 近藤次郎グラント」応募要項

1. 研究助成の目的

旭硝子財団は、次世代社会の基盤を構築するような独創的な研究への助成事業を通じて、人類が真の豊かさを享受できる社会および文明の創造に寄与します。当財団には5つの国内研究助成プログラムがあります。本冊子で説明する「環境研究 近藤次郎グラント」プログラムは、1992年に始まった当財団の地球環境国際賞「ブループラネット賞」の創設に大きな役割を果たされた近藤次郎東京大学名誉教授のお名前を戴いた環境研究助成として、本年度から新たに募集を開始します。地球環境問題の解決や持続可能な社会の構築に資する研究を助成します。

2. 応募要件

1. 所属機関：国内の大学、その附置研究所、ならびに大学共同利用機関
2. 職位：上記の機関に所属し、主体的に研究を進めている常勤の研究者
 - ・任期付研究者の場合には、応募時点において、申請する研究期間のうち、少なくとも初年度の雇用が見込まれること
 - ・プロジェクト研究員、ポスドクの場合には、職務専念義務の制約がないこと
3. 機関承認：当財団からの奨学寄附金を所属機関がその規程に従った研究費（委任経理金）として管理する前提のもとに、所属上長が応募を承認していること
4. 年齢：制限なし
5. 助成および応募の重複：応募時点で当財団からの研究助成を受けていないこと、ならびに当財団に対して同一年度に複数の応募申請をしていないこと

3. 助成対象課題

プログラムの趣旨としては、たとえば新材料・プロセスや計測観測手法の開発、生態系の保全と再生、土地利用、環境教育など幅広い分野を助成対象とし、募集年度ごとに研究領域を特定します。本年度は、以下の課題とします。

1. 生態系や水資源に配慮した土地利用に関する研究
2. 環境負荷の「見える化」指標やその活用に関する研究
3. 環境問題の解決に資する新材料・プロセスに関する研究

4. 採択数

3-4 件の予定です。

5. 助成金額と研究期間、助成金の振込時期

1 件あたり 300～700 万円(総額)とします。実験・測定系の研究では上限 700 万円、調査を中心とした研究では上限 400 万円でご申請ください。研究期間は平成 22 年 4 月から 2～3 年間です。但し、助成金は初年度に一括して振込む予定ですので、所属機関において年度繰越をしながら使用してください。

6. 助成金の使途

以下の費用を申請可能です。費目間の分配比率に制限はありませんが、資金計画の適否も選考審査の対象です。

1. 設備備品費
2. 消耗品費
3. 旅費
4. 謝金（アルバイト・フィールド調査などの労役対価）
5. その他（印刷費・通信費・会議費など）
6. 所属機関へ支払う間接経費／オーバーヘッド（当財団からの寄附金は原則として全額を直接研究費に充てて頂く方針ですので、採択後に必ず学内で免除申請を行ってください。採択決定者には別途、詳細をお伝えします）

なお、助成金を申請者や共同研究者等の労務費（給与や社会保険費等）に充当することはできません。

7. 応募方法

<提出する書類>

1. 申込書（所属長の捺印を要します）： 1 部
 2. 個人情報の取扱いに関する同意書： 1 部
 3. 申請書（ホチキス留め）： 5 部
 4. 論文別刷（コピー可、ホチキス留め）： 5 部
- ※ 申請書と論文別刷の各 1 部ずつをクリップで留めた状態で、5 セットお送りください。
※ 申請書類は当財団において管理し、研究助成の目的以外には使用いたしません。
※ 原則として申請書類は返却いたしません。

<提出先>

提出書類は申請者が発送してください。

〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ 2F
財団法人 旭硝子財団 研究助成担当宛

<提出期間>

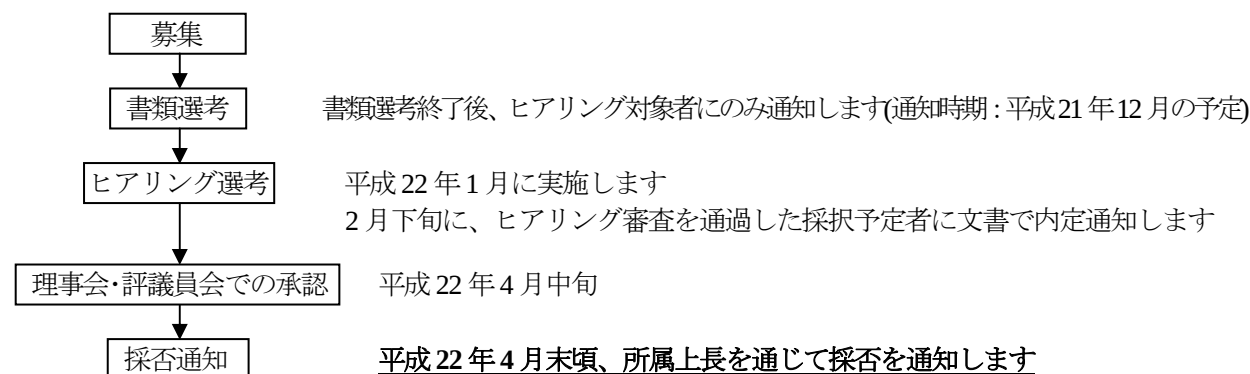
平成 21 年 6 月 22 日(月)～平成 21 年 9 月 11 日(金): 必着

締切後、2 週間以内に当財団から電子メールで受理通知を送ります。

<応募情報の WEB 入力>

提出書類の発送後、速やかに当財団ホームページの右側下にある「ファイル送付」ボタンをクリックし、「研究助成 電子申請フォーム」から応募情報を入力してください。当財団で応募の確認に使用いたします。9 月 11 日（金）までに書類提出とWEB入力の両方が完了している必要があります。

8. 選考日程と採否通知



※ 採否通知発送までの期間において、個別のご照会には回答いたしかねますので、ご了承ください。

9. 選考のポイント

1. プログラムの趣旨との合致
2. 研究課題の設定と独創性
3. 研究の学術的または社会的な意義と期待効果
4. 研究計画の実行可能性、研究助成金の使途内訳など

※ 選考の過程において、当財団は選考に利害関係のない有識者に申請書を送って評価意見を求めることがあります。

10. 研究助成金の会計処理

助成金を研究者個人の口座へ振込むことはできません。当財団が所属機関宛に奨学寄附金として贈呈しますので、所属機関の委任経理による会計処理をお願いいたします。

予算の変更、助成金の翌年度への繰り越し、研究終了時の残余金の扱い等については、当財団の「研究助成の手引き」に記載されています（ホームページからダウンロード可能です）。

11. 採択後の提出物等

下記の書類のご提出、ならびに当財団の出版物へのご寄稿や発表会でのプレゼンテーションをお願いいたします。

1. 実施予算書・振込依頼書：毎年度期首に提出
2. 顔写真(電子ファイル)・応募申請書(同)：採択時に提出
3. 助成研究経過報告：年度末の継続時に提出
4. 会計報告書：年度末の継続時と終了時に提出
5. 助成期間中のコミュニケーション：詳細未定、発表会への参加や当財団関係者の訪問等をお願いすることがあります
6. 助成研究成果報告：研究期間終了後の5月頃締切、WEB 入稿
7. 助成研究発表会：研究期間終了後の7月

12. 研究成果の扱い

当財団による助成研究の成果については、積極的な論文発表や口頭発表をお願いいたします。
研究成果に基づいた特許または実用新案の出願に際して、当財団は権利を主張しません。

13. 選考委員

鈴木 基之 (委員長)	放送大学教授、東京大学名誉教授
岡田 光正	広島大学大学院工学研究科教授、前広島大学理事・副学長
澤田 嗣郎	科学技術振興機構・先端計測技術推進部常勤開発総括、東京大学名誉教授
和田 英太郎	海洋研究開発機構・地球環境変動領域特任上席研究員

近藤次郎先生について

近藤次郎先生は1917年生まれ、滋賀県大津市出身。京都帝国大学理学部数学科卒業、東京帝国大学工学部航空学科卒業、工学博士。東京大学工学部教授、同工学部長、国立公害研究所所長、日本学術会議会長等を歴任され、現在NPO環境テクノロジーセンター会長。

地球環境問題に対する造詣が大変深く、1992年に始まった当財団の地球環境国際賞「ブループラネット賞」の創設に大きな役割を果たされました。以来、受賞者の選考にあたって毎年ご活躍くださっているだけでなく、当財団の環境関係の活動に関しても数多くのご意見を賜っています。

「環境研究 近藤次郎グラント」は、近藤先生への敬意を表して、また今後も変わることのないご活躍を祈念して、先生のお名前を戴いて平成21年度から募集を開始いたしました。

旭硝子財団について

沿革 旭硝子財団は、旭硝子株式会社創業25周年を記念して、その翌年の昭和8年(1933年)に旭化学工業奨励会として設立されました。発足以来半世紀以上の間、戦後の混乱期を除いて、応用化学分野の研究に対する助成を継続しました。その後、平成2年(1990年)に新しい時代の要請に応える財団を目指して事業内容を全面的に見直し、助成対象分野の拡大と顕彰事業の新設を行うとともに財団の名称を旭硝子財団に改め、以来、今日に至るまで研究助成事業と顕彰事業とを2本の柱とする活動を行っています。

目的 旭硝子財団は、次の時代を拓く科学技術に関する研究助成、地球環境問題の解決に大きく貢献した個人や団体に対する顕彰などを通じて、人類が真の豊かさを享受できる社会および文明の創造に寄与します。

研究助成事業 次世代社会の基盤を構築するような自然科学の独創的な研究、および社会の重要課題の解決に指針を与えるような人文・社会科学の研究を助成します。国内の大学だけでなく、チュラロンコン大学(タイ)およびバンドン工科大学(インドネシア)に対しても、研究助成を行っています。

顕彰事業 「ブループラネット賞」は、地球環境問題の解決に大きく貢献した個人や団体に対して感謝を捧げると共に、多くの人々がそれぞれの立場で環境問題の解決に参加されることを願って創設されました。国内外のノミネーターに候補者の推薦を依頼し、その中から毎年原則として2件を選定します。受賞者にはそれぞれ賞状・トロフィーならびに副賞賞金5,000万円が贈呈されます。

財団法人 旭硝子財団

<http://www.af-info.or.jp>

〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ 2F

TEL (03) 5275-0620 FAX (03) 5275-0871

E-mail: post@af-info.or.jp